

# 校長室通信

津谷中学校 校長 今野勝美

令和2年1月31日（金）

以前、校長室通信を発行していた校長先生がいらしたということを知っておりましたので、私も不定期ながら生徒または保護者の皆様に向けて発行したいと思います。

今回は **「節分と豆まき」** について です。

もうすぐ節分です。季節の行事として昔豆まきをしたことを覚えております。しかし、今は食卓に恵方巻きが置いてあり、複雑な感じがあります。これまでの「校長通信」は、家庭や地域へのお願いのような感じの内容が多かったことから、今回は日本の伝統的行事として昔は多くの家庭で行われていた節分としての行事、豆まきについて紹介します。



## 〔節分〕

節分とは本来、季節の節目である「立春」、「立夏」、「立秋」、「立冬」の前日のことをいい、年に4回あります。

ところが、旧暦（<sup>きゅうれき</sup>明治5年まで使用されていた今より約1ヶ月遅い<sup>こよみ</sup>暦）では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分（2月3日頃）は、大晦日に相当する大事な日でした。そこで、立春の前日の節分が重要視され、節分といえはこの日をさすようになったそうです。

昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、様々な邪気ばらい行事が行われてきました。豆まきも、新年を迎えるための邪気ばらい行事です。

## 〔豆まきの由来〕

古代中国では、大晦日に「追儺（ついな）」という鬼や疫<sup>やくびょうがみ</sup>病神をはらう行事がありました。これは、桃の木で作った弓矢を射って鬼を追いはらう行事です。これが奈良時代に日本に伝わり、平安時代に宮中行事として取り入れられました。その行事のひとつ「豆打ち」の名残が「豆まき」で江戸時代に庶民の間に広がりました。

豆を"打つ"から"まく"に変わったのは、農民の豊作を願う気持ちを反映し、畑に豆をまくしぐさを表しているからだといわれています。

本来は大晦日の行事でしたが、旧暦では新年が春から始まるため、立春前日の節分に行われるようになり、節分の邪気ばらい行事として定着したそうです。

## [豆まき]

鬼は邪気や厄の象徴とされ、形の見えない災害、病、飢饉など、人間の想像力を越えた恐ろしい出来事は鬼の仕業と考えられてきました。

鬼を追いはらう豆は、五穀の中でも穀霊が宿るといわれる大豆です。豆が「魔滅」<sup>まめつ</sup>、豆を煎ることで「魔の目を射る」ことに通じるため、煎った大豆を使い、これを「福豆」と言います。



## ※豆まきの仕方

### 1 豆は必ず炒り豆で

豆には穀物の霊力が宿っているとされており、芽が出る寸前の春の豆は生命力の象徴で縁起が良いとされています。しかし、拾い忘れた豆から芽が出ると良くないことが起こるといわれていることから、豆は必ず火を通してからまくようにします。

### 2 神棚に祭って鬼退治のパワーアップ

炒った豆を枡に入れ、神棚にお供えます。神棚がない場合は南の方角に置きます。夜になってから、戸口や窓、ベランダなどで豆まきを開始します。

### 3 大きな声で「鬼は外！福は内！」

豆をまくのは、家長<sup>かちやう</sup>（家族の中心者）の役目とされ、その年の干支の年男、年女も吉とされています。家中の戸を開け放して「鬼は外！福は内！」と大きな声で唱えながら家の外と内に豆をまきます。豆をまいたら、鬼が入ってこないようすぐに戸を閉めます。

そのあと1年間無病息災<sup>むびようそくさい</sup>で過ごせるよう、年の数だけ福豆を食べる風習があります。食べる豆の数は、新しい年の厄ばらいなので満年齢よりも1つ多く食べる、いわゆる数え年として1つ多く食べる、もともとが数え年と考え新年の分を加えて2つ多く食べる、満年齢のまま食べるなど、地方によって様々ですが、全部食べきれないという場合は、梅干し、塩昆布、豆3粒を入れた「福茶」を飲む方法もあるとされています。

## [恵方巻きを食べるのはなぜ？]



恵方巻は、その年の恵方を向いて丸かじりすると願い事が叶い、無病息災や商売繁盛をもたらすとされる縁起のよい太巻きである。大阪発祥の風習ですが、関西地方で親しまれ今は全国的な広がりを見せています。恵方巻には、縁起よく七福神にちなんで7種類の具を入れ、巻き込んだ福を逃さぬよう丸ごと1本、恵方を向いて無言で食べるとよいとされています。

また、太巻きを鬼の金棒（逃げた鬼が忘れていった金棒）に見立てて、鬼退治ととらえる説もあります。

※参考：「日々生き生き 暮らし歳時記」（私の根っこプロジェクト）